

The Japan Times [グローバル時代の就活に役立つ情報紙]

The University Times

May 2013 Special Issue

ケベック特集

All About Québec

ケベック州を知る

自然、教育、文化、生活。 魅力あふれるケベック州

多様な民族、多様な文化が共存する国であり、フレンドリーな国民性が留学先として人気を集めるカナダ。そんなカナダの東部に位置し、国内で2番目に広い面積を持つケベック州。カナダ国内では唯一、フランス語を公用語に定めている。ケベック州の魅力を探ってみよう。

自然の魅力に富んだ見どころの多い土地

カナダ最大の人口を誇るオンタリオ州と接し、西北部はハドソン湾に、北部は北極海に面するケベック州。標高 1622 メートルのディパーヴィル山を抱き、南部には平野が広がる。約 810 万人を数える人口の大部分は、南部のセントローレンス川流域に居住している。州都はケベック・シティーで、州最大の都市はモントリオールである。

ナイアガラからケベック・シティーを結ぶ、約 800km の「メープル街道」は、カナダ開拓の歴史を感じさせる見どころが点在し、ケベック・シティーやモントリオールなどの旧市街には中世ヨーロッパを思わせる街並みも残る。数多くの湖沼が点在するローレンシャン高原や、北部のツンドラ地帯など、景観は変化に富んでいる。世界的な紅葉の名所であるローレンシャン高原は、モントリオールの北約 60km に位置し、メープルや白樺の木々が赤や黄色に色づき、その一面に広がる紅葉は、日本では目にするのできない壮大なスケールであり、一見の価値がある。



モントリオールの街中にある公園は人々の憩いの場となっている

北米地域で最も大学生が多い地域

ケベック州は植民地時代において、イギリス人よりも先にフランス人の入植が始まったため、州民の圧倒的多数がフランス系である。そのため公用語はフランス語だが、英語はもちろん、イタリア語やスペイン語、アラビア語など移民の言語も話されている。モントリオールと周辺都市では、英語とフランス語の2カ国語が話され、特に、モントリオール西部はほぼ英語圏であり、多くの住民がバイリンガルもしくはトライリンガルである。

北米地域で最も大学生の多いモントリオールには、モントリオール大学をはじめとする 11 の大学教育機関がある。在籍する学生は 7 万人で、アメリカ国内で知的な都市として名を馳せるボストンでさえも、この数には及ばない。さらに、カレッジや専門中等教育のプログラムに在籍する学生も含めると、その数は約 35 万人にも達する。モントリオールの質の高い教育は世界的にも知られ、カナダ最多の 1 万 5,000 人も外国人留学生が世界各国から集まってくる。

CONTENTS

ケベック州を知る ①	ケベック州への留学 ③
ケベック州の教育 ②	ケベック州の研究と産業 ④



メープル街道に代表されるケベック州の豊かな自然。秋の紅葉は、美しく一見の価値がある

そのような大学都市であるモントリオールは、ケベック州の経済の中心地であると同時に文化の中心地でもある。毎年開催される「モントリオール世界映画祭」をはじめ、「モントリオール国際ジャズフェスティバル」など、世界中から観光客が集まる大きなイベントも有名だ。また、ケベック州は日本でも人気の「シルク・ドゥ・ソレイユ」発祥の地でもあり、さらに、世界的アーティストのセリーヌ・ディオーンもケベック州の出身である。

フランスの食文化の影響を色濃く受けて

フランス系移民の影響もあり、食文化はフランス料理を受け継いだケベック料理が主体となっている。フライドポテトにグレイビーソースとチヂューチーズの粒をかけたファストフードは、ケベック生まれのカナダ料理だ。メープルシロップの生産が盛んな土地でもあり、カナダ全体の生産量のおよそ 9 割をケベック州が占めている。シロップの収穫はこの地の文化となり、毎年 2 月の収穫時期には、シュガーシャック（砂糖小屋）で祭りが催される。収穫期間中にはホットケーキやワッフルを食べさせるシュガーシャックも多い。雪の上にメープルシロップを流しかけ、棒に巻き付けたり、そのまま棒状で食べたりする「メープルタフィー」なるものも存在する。

ケベック料理としてはほかにも、ユダヤ人移民が生み出した「モントリオール式ベークル」や「スモークミート」などがよく知られている。

州民はみな法律の下に平等

ケベック州は「生活のしやすさ」の面でも注目を集める。州政府が行う公共サービスはカナダで最も手厚い。たとえば、低収入の家族のために助成金を支払う公共育児休暇制度や廉価な保育所のネットワークが整えられ

ており、これは仕事と家庭生活の両立を支援したいとする州政府の意向の現れといえよう。また、誰もが医療、社会福祉、医薬品の利用を保障されており、住民は医療保険と薬剤保険の公共制度の恩恵を受けることができる。

州民はすべて法の下に「平等」であり、あらゆる差別の排除を目指している。これは 1982 年に施行された「人権と自由の憲章」によるもので、ケベック州民の基本的な人権、参政権、司法権および平等の権利に反する法律は無効とされる。男女の平等もその一つであり、女性は職業を自由に選択でき、働く女性は企業内での職務が同じ価値を有する場合は、男性と同賃金を得ることが義務づけられている。

また、表現の自由や宗教の自由、違いを尊重する社会が成立しており、ケベック州に暮らす、多様な文化を持つ多様な民族の人権と自由が保障されている。



DATA ケベック州

州都：ケベック・シティー
最大都市：モントリオール
公用語：フランス語
面積：1,542,056 km² (国内第 2 位)
人口：約 810 万人 (2012 年)

Education

教育システムの特徴を知ろう

ケベック州の教育

義務教育は無料 大学教育も比較的安価に

ケベック州の公教育は税金で賄われている。大学の費用も北米の中では比較的安価で、質の高い教育が定評を得ている。ケベック州では、どのようなシステムに基づいた教育が行われているのだろうか。

義務教育は6歳から16歳まで無料

ケベック州では、6歳から16歳までのすべての子どもに教育が義務づけられている。義務教育開始前の子どもは、幼稚園などでの1年間の就学前教育を通じて、社会的・知的能力を身につけさせ、家庭から学校へと変化する環境に対応できるようにする。

6歳になると、日本同様に6年間の初等教育が始まる。1クラス20～25人の少人数を保っている。学校ではスポーツや文化、社会活動も盛んに行われる。

中等教育は5年間で、「一般教育」と「専門教育」の2つのサイクルに分けられている。基礎となる最初の3年間では、語学、歴史、地理、数学、芸術、音楽、スポーツの授業を受ける。そして、オプション授業として、物理、科学、音楽、歴史、芸術なども学び、自身の希望する進路に応じて、カレッジで一般教育をさらに深めるか、職業に就くための

専門教育を受けるかを選択する。

これらの公教育はすべて税金で賄われるため、教育費は無料とされる。ただし、私立の学校に通うためには、授業料を支払い、各校の入学基準を満たす必要がある。

州独自の高等教育システム「セジェップ (CÉGEP)」

ケベック州の高等教育は、他の州の教育システムとは異なる。中等教育を修了した生徒は、すぐに大学へは進学せず、カレッジに進む。2年間の一般専門教育か、3年間の職業訓練教育を受けるこのカレッジでの教育課程は、「セジェップ」と呼ばれるケベック州独自の教育システムである。カレッジでは、大学に入学するための前提条件となる8つのプログラムを備える「大学進学準備教育」のほか、職業に就くための130のさまざまな職業訓練教育プログラムが用意されている。

ケベック州には現在、18の大学と48のセジェップがあり、そのうち3つの大学と6つの



モントリオールにあるマギル大学は1821年創立のカナダ最古の大学だ

セジェップが英語系の教育機関である。ただし、どのプログラムに在籍しても、学生は全員共通の一般教育の授業を受けることになる。

労働と学習を交互に行い、実践的に学ぶ

セジェップは1967年に創設された公立機関だ。ケベック州の高等教育への進学促進を図る手段として創設された。48校あるセジェップは、社会・経済・文化および地域の共同体のさまざまな活動の中心であり、技術教育の指針となるモデル機関となっている。

職業訓練教育の内容は大きく5つの専門分野に分類される。バイオ・農産物加工技

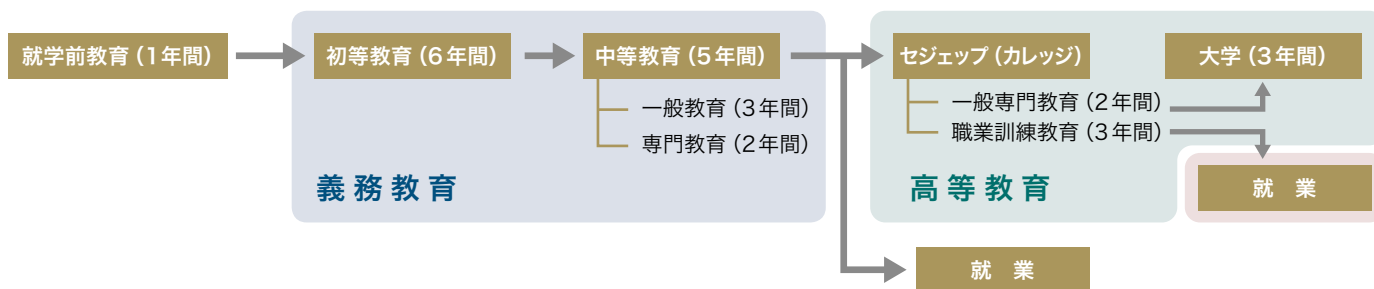
術、人文科学技術、物理技術、経営技術、そしてグラフィックアートとグラフィックコミュニケーション技術である。130にも及ぶプログラムは、労働市場の変化とそのニーズに応じて定期的に見直される。多くのコースでは実際の労働現場での研修が含まれ、労働と学習を交互に行う。この研修は報酬を伴い、学生は自分が選択した職業の実地訓練を通じて、必要な能力を習得するほか、自分に本当に向いているのかを見極める機会にもなる。

市内18の大学が地域に根ざした教育を提供

1960年代以降、ケベック州の高等教育システムは、すべての州民が通いやすいように地域を分散して設置するなど、人口の大幅な増加に対処してきた。市内にある18の大学では、あらゆる科目を網羅しており、レベル、多様性ともに申し分ない。たとえば、マギル大学は世界大学ランキングで第18位にランキングされている。ラヴァル大学は北米初のフランス語系大学であり、シュルブルック大学は共同教育制度を提供している。モントリオール理工科学校はあらゆる工学分野の教育を専門とし、モントリオール高等商業学院は経営に関する最高の学びを提供する学校として数えられている。

また、ケベック州政府によって1968年に設立されたケベック大学のネットワークには、モントリオール校、トロワ・リヴィエール校、リムスキー校など10の教育機関が含まれ、9万2,000人の学生、6,600人超の教授と講師および4,000人の職員を抱える。このネットワークには「大学への進学促進」「ケベック州の学術発展への貢献」「地域の発展への関与」という使命がある。市内の大学はそれぞれ、設置された地域の環境から構想を得た教育プログラムが提供されている。

こうした大学教育を誰もが享受できるように、教育・レジャー・スポーツ省では、財政援助プログラムを用意している。認可を受けた教育施設に通学するケベック州在住者を対象とするプログラムだ。また、大学教育の費用自体も、北米の中では比較的安価である。誰もが教育を平等に受けることができる配慮がなされているといえるだろう。



北米最大のフランス語系大学であるモントリオール大学。キャンパスは、モン・ロワイヤルの丘の北側に広がる。

Study Abroad

留学先としてのケベック

ケベック州への留学

留学で新しい価値観に触れ
豊かな経験を

年間平均2万5,000人以上の留学生を受け入れているケベック州。州民だけでなく、留学生にも学びの機会を広げる配慮がなされている。ケベック州への留学を通じて得られる体験とは何だろう。

地球環境に根づいた教育に定評

ケベック州にある18の大学では、あらゆる学問分野において、質の高い教育が提供されている。ケベック州の大学は地球環境に根づいた教育に定評がある。たとえば、自然環境豊かなリムスキー地域に基盤を置いた海洋科学・北方研究・地域発展プログラムや、アピティビ・テミスカミング地方で行われている森林開発や鉱山に関するプログラムなどが挙げられる。どの大学でも、附属研究所の研究成果の高さ、最先端の研究に取り組む教授や研究者たちの専門知識の深さなど、世界中から留学生を引きつける要素がそろっている。なかでも、州最大の都市モントリオールは、

カナダにおける大学の中心地的な存在である。実際のところ、モントリオールには州内の全大学生の3分の2にあたる18万人以上が集まり、そのなかには留学生2万5,000人も含まれる。

留学生受け入れを促進するプログラムを提供

留学生の受け入れを促進するため、州内では数々の学習支援プログラムが提供されている。「MICTAS 促進プログラム」と「実習環境における研究奨学金プログラム BMP イノベーション」は、自然・テクノロジー・ケベック研究基金とカナダ自然科学工学研究会議が共同で提供するものだ。修士または博士課程に在籍する学生を対象とし、産学連携での

留学までの流れ

STEP 1

留学の目的の明確化とプラン作成 (短期/長期/3年間)

STEP 2

目的に合う学校選び

STEP 3

入学手続きと渡航準備

STEP 4

語学力アップ

研究プロジェクトに参加を希望する者に財政支援を行う。このようなプログラムは、企業のイノベーション能力拡大、高等教育修了者の雇用、留学生募集促進を目的としている。

また、博士号の取得を目指す優秀な留学生に対する財政支援として、ケベック研究基金による「留学生のための博士課程研究奨学金プログラム」も用意されている。航空宇宙産業、ナノテクノロジー、情報コミュニケーション技術、ゲノム研究、新医療技術、人

文社会科学、そして芸術や文学と多岐にわたる分野が対象となる。

このように、ケベック州では財政支援、就労の可能性、各種奨学金など、留学生を受け入れる体制が整っている。専門とする学問分野の知識の獲得はもちろんのこと、新しい文化や言語と出会い、人間的にも大きく成長する機会となる海外留学。ケベック州への留学は、皆さんの将来への可能性を広げる第一歩になるだろう。

「ケベック留学に関するより詳しい情報はコチラ」

〈ケベック州政府 HP & E-mail〉

URL: www.gouv.qc.ca/portail/quebec/international/japon/etudes/
E-mail: qc.tokyo@mrifce.gouv.qc.ca



実り多かったケベック州での日々 小木曾 麻衣さん

モントリオールに魅力を感じて

大学を卒業し、企業に就職して働くことに疑問を抱いた私は、1997年、大学3年生の時に休学して、1年間カナダへ留学しました。カナダを選んだのは、治安が良く、教育水準も高いこと、そして、清潔な国であることが理由でした。日本のような島国とは違う大陸的な環境に身を置いてみたいという気持ちもありました。

カナダ留学当初はオンタリオ州のオタワで、大学の語学コースに入学して英語を学びました。幼い頃から、父の海外旅行の経験談を聞いては海外へのあこがれを抱き、自宅で開かれている英語教室で英語カルタなどをして遊んで英語に慣れ親しんでいたため、英語はもともと好きな方でした。日常会話程度であれば理解し、通じ合える自信はありましたが、生活していく以上は、しっかりと英語力を身につけたいと、語学コースで学ぶことにしたのです。

あるとき、隣接するケベック州のモントリオールへ遊びに行き、文化的な香りのする街にすっかり魅せられて、「この街で暮らしてみたい」という気持ちが高まり、オタワで半年間過ごした後、モントリオールへ拠点を移しました。ケベック州と私のつながりは、このとき始まったのです。

ヴィクトリア調の建物が並ぶモントリオールの街には、アーティストがたくさん住んでいて、至るところで文化を感じることができ

ます。日本では出会ったことのないような人との出会いが、私を待っていました。

そして、半年間の滞在期間を終えて、私はいったん帰国。そして、日本で大学を卒業し、IT関連の企業で3年間働き、渡航準備をしっかりとらうと、今度は1年半の予定で、ワーキングホリデーの制度を利用し、2002年にモントリオールへ旅立ちました。

生活の楽しみ方を教えてくれた
モントリオール

フランス語圏であるケベック州では、フランス語が話せなければ生活もままなりません。そこで、私は滞在して間もなく、フランス語学校に通いました。そして、少しでも自分の経験を生かして働こうと、地元のIT企業や宇宙関連の企業などでweb制作の仕事に就きました。

モントリオールで暮らすなかで、私が最も魅力を感じたのは、人々の生活の楽しみ方です。物質文化である日本と違い、モントリオールの人々は、たとえば、コーヒー1杯で時間を楽しむことができるのです。そこには豪華な食事でも必要ありません。ゆったりと流れる時間のなかで、会話を楽しみ、その時間自体を大切に過ごすのです。ピクニックやホームパーティーなどにも頻繁に出かけ、人とのコミュニケーションを楽しんでいました。

また、古い物を長く大切に使う姿勢にも感銘を受けました。壊れたからといってすぐに新しい物に買い替えるのではなく、何

度でも修理して長く大切に使うのです。そうすることによって、その物自体の味わいが深くなっていくのです。日本では経験したことのない生活の楽しみ方に触れ、新たな価値観と出会った気がしました。「物質的な豊かさ=豊か」ということではないことを痛感し、日本人も見習うべきことが多いと感じました。

モントリオールは文化の中心地でもありません。世界的に有名な映画祭やジャズフェスティバルが開催され、海外から観光客がたくさん集まります。街中にはアーティストが数多く住んでいるため、至るところでアートに触れることができました。音楽もあちこちから聞こえ、文化の香りを日常的に感じながら生活できることが、新鮮な感覚でした。

新しい価値観と出会い、
自分や日本を見つめるきっかけに

モントリオールでは、トロント出身の女性とルームシェアして生活していました。彼女には州内の各地に連れて行ってほしい、行動範囲が広がりました。今でも連絡を取り合う大切な友人です。

彼女は「自分」というものをしっかり持っている人でした。彼女に限らず、出会った人たちは皆、「自分はこういう人間です。あなたはどんな考えを持っていますか」と必ず聞いてきます。皆、自分の一挙一動に自信を持っていて、きちんと自分を語れる人ばかり。そんなとき、私には語れるものがなく、

自分というものがないことに愕然としました。そして、「将来設計も希望も今はなく、自分がどうしたらいいのかを見つけるために、カナダに来たのだ」と説明していました。

皆さんも、留学したらきっと、私と同じような場面に遭遇するかもしれません。でも、そんなとき、自信をなくすのではなく、初めから目標が見えている人もいれば、歩きながら見つけていく人もいるのだと思って、前に進んでいってほしいと思います。

私はモントリオールで暮らし、新しい価値観と出会い、日本では知ることのなかった生き方に会いました。そして、日本を離れたことで、あらためて、日本の良さを見出すこともできました。海外に出るということは、自分を見つめ、日本という国を見つめ直す体験を得ること。視野も広がることでしょう。ぜひ、読者の皆さんにも、海外体験を積んでほしいと思います。そして、新たな自分と出会ってください。

小木曾 麻衣さん プロフィール



大学3年次にカナダ・オンタリオ州へ長期留学。半年間をオタワで過ごしたのちに、ケベック州モントリオールに半年間滞在。留学期間を終えて帰国した後、大学を卒業し、日本でIT企業に就職。3年間の勤務経験を経て、2002年に再び渡加。ワーキングホリデー制度を利用し、モントリオールにてweb制作などの仕事に就く。

Innovation

レベルの高い技術革新

ケベック州の研究と産業

世界でも高いレベルを誇る ケベック州の研究開発

ケベック州には世界でも有数の研究施設があり、最新の技術開発が進んでいる。国内総生産に応じた研究開発費の割合は、カナダ全州のなかで最も高く、技術革新に果敢に取り組んできた土壌がある。

さまざまな分野で世界をリード

ケベック州の18の大学にはのべ1万3,000人に及ぶ研究者が集まっている。特にモントリオール、ケベック・シティー、シェルブルックの3都市が大学教育機関の中心地であり、ケベックにおけるさまざまな技術革新を支えている。ケベック州が高い研究レベルを誇る分野は、①航空宇宙産業、②生命科学、③クリーンテクノロジー、④情報コミュニケーション技術の4つだ。

航空宇宙産業で言えば、飛行機部門が世界最大級の生産設備を誇るボンバルディア社や民間機用の実物大フライトシミュレーター的设计・製作で世界をリードするCAE

社が、その代表だ。また、情報コミュニケーション技術はケベック州の主要産業だ。州内には5000社あまりのICT関連企業があり、売上高は190億ドルに達している。厳しい地理的、気候的条件に負けまいと技術革新を繰り返してきた分野だ。

豊かな自然にあふれたカナダでは、エコロジーに対する人々の意識も、他国に比べて高い。そうした一人ひとりの意識が、空気・水質・土壌の汚染を最小限にとどめ、資源を節約するためのクリーンテクノロジーの発展を促進している。まさに、21世紀には世界ですすまず要請が高まる産業であり、ケベック州政府はこの分野の開発支援のために2億ドルの基金を用意している。



生命科学が盛んなモントリオールにあるバイオスフィアの研究所

世界的に優秀な人材が集まる地

高い技術レベルを底支えるのは世界各地から集まった人材だ。ケベック州では世界をリードする研究開発を推進するため、世界中から優秀な人材を集めることに力を注いでいる。

たとえば、ケベック州で修士号を取得した留学生が州に残ることができるように許可証を発行したり、ケベックの企業が海外の有資格労働者をケベック渡航前に雇用できるプログラムを設けたりしてきた。さらにはカナダとEUの間で交わされる経済的パートナーシップの交渉においても、ケベック州は重要な役割を演じ、EUからも多くの魅力的な人々

を引きつけてきた。こうした努力は、国際的な人材の確保においてケベック州をパイオニアたらしめている。



各国から集まった研究者たちがケベック州の最先端の研究を支える

航空宇宙産業

ケベック州の海外輸出のトップクラスに数えられる産業。航空機の製造に必要なほぼすべての部品が、モントリオールから30km圏内で作られている。モントリオールには、国際民間航空機関や国際定期航空操縦士協会連合会といった、航空宇宙産業に関連する数多くの国際的な組織が本部を構える。



環境に優しい航空機の開発も進んでいる



航空機の開発製造風景

生命科学

バイオ医薬品産業の研究が盛んなケベック州。州内にはこの分野における世界レベルの研究センターがあり、神経科学をはじめ、がん、伝染病、老化現象、新陳代謝といった分野の研究が進んでいる。また、ケベック州はゲノム分野においても注目を集め、最近では、オーダーメイド医療分野でも名を上げている。



ラヴァル大学は生命科学分野の研究に定評がある



モントリオールにある心臓関連の研究施設

クリーンテクノロジー

再生可能なエネルギーの生産、水処理、残留物処理、専門コンサルティングの分野の研究が高いレベルを誇る。交通機関の電化、バイオエネルギーの開発、企業のCO₂排出量削減などへの取り組みを通じて、2020年までに温室効果ガスの排出量を1990年比で25%削減し、気候変動への順応性をさらに向上させるという目標も達成している。



マニクアガン川をせき止めるダニエル・ジョンソンダム



ハイドロケベックダム

情報コミュニケーション技術

ケベック州の経済の中心を成している。特に、マイクロエレクトロニクス、光計測と光通信、モバイル通信用に開発された通信アプリケーション設備、ビデオゲーム、アニメーション、特殊効果などの研究が盛んだ。これらの研究開発は、カナダ工学研究所などさまざまな機関によって支えられている。



モントリオールのETS(工科大学)



マギル大学の物理学部では、Podcastを活用した研究も